

パンクラス アテナ オフィシャルルール

～2010年改訂版(2010年9月5日より実施)～

～アテナとは～

古代ギリシャにおいて首都アテネの守護神としてパルテノン神殿に住んでいたといわれる女神。

アテナ女神は知恵・学芸・芸術・戦争の女神としてまつられていた。

～パンクラス アテナ総則～

パンクラス アテナは、競技者が
パンチ、キック、投げ、関節技、絞め技を有効
に使い、技術、体力、精神力、知力、美、運を
競い合うプロスポーツである。

よって、競技者はルールを厳守し、
試合はスポーツウーマン精神に則って
行わなければならない。

第1章 試合場

第1条 パンクラスが認可した規格のリングを試合場とする。

第2章 競技用具

第2条 競技者は、服装と競技用具に関し、原則として次の事項を守らなければならない。

- (1) 競技者は、パンクラスが認可する**コスチューム、マウスピース、オープンフィンガーグローブ、アンダーガード**を必ず着用しなければならない。**また、長髪の場合は輪ゴムで束ねること。**
- (2) 競技者の競技用具は、**試合に支障を来たす硬い物**を使用してはならない。**また、滑る物、試合に支障を来たすと思われる過度のたるみのあるものなどは着用してはならない。**
- (3) 競技者は、本稿に掲げる競技用具を任意に着用することができる。
 - ① ニーパッド
競技用具のニーパッドは、表面を伸縮性のある布地とし、中身の素材はネオプレンまたは圧縮スポンジで、縦 20cm 以内、横 25cm 以内、厚さ 1.5cm 以内のものをを用いる。
 - ② レガース
競技用具のレガースは表面を革とし、中身の素材はネオプレンまたは圧縮スポンジで、厚さ 1.5cm 以内とする。
 - ③ シューズ
競技用具のシューズはパンクラスが認可する**レスリングシューズのみ着用を認める。**
- (4) 競技者はバンテージを使用する場合、パンクラスが認定する物を使用しなければならない。使用に際して内部に芯、紙縫り等を巻き込んではならない。また拳に装着状態で拳骨の形が確認できない厚さに巻いてはならない。
- (5) 競技用具及び全ての部位へのテーピング、バンテージ、サポータ類は全試合開始 60 分前までに、公認レフェリーのチェックが必要となる。
- (6) 指定競技用具(マウスピース、アンダーガード、コスチューム、オープンフィンガーグローブ、ニーパッド、レガース、シューズ)以外の着用、または規格外の競技用具の使用は、パンクラスの許可と競技者双方の承諾が必要となる。
- (7) 競技者は**体にワセリン、油脂類、整髪料、滑り止め等一切の薬品、塗布物等**を使用してはならない。**ただし、顔面にのみ最小限度のワセリンの使用を認める。**なお、顔面へのワセリンの使用状態については、試合開

始直前にメインレフェリーまたはサブレフェリーが塗布された状況を確認して、その適否を判断する。

第3条 レフェリーは、競技者の服装に関して次のように処置する。

- (1) 競技者の競技用具や服装が常態でなくなった場合、レフェリーがなるべく手早く処理するために一時試合を中断する場合がある。
- (2) 競技用具が故意、偶然に関わらず試合に支障を来たすような破損をした場合レフェリーは試合を止め、速やかに最善の処置をとる。ただし、自身の責任により試合用コスチューム、マウスピース等が破損し、試合続行が不可能になった場合は反則負けとする場合がある。

第3章 審判

第4条 レフェリーは試合中、次の命令後、及び指示を用いる。

- (1) ファイト - 試合の開始、または続行を告げる場合。
- (2) ストップ - 試合の終了、または一時中断を告げる場合。
- (3) アクション - 試合の攻防の積極性を促す場合。
- (4) ブレイク - 次の①～⑤の場合で試合の攻防を解きスタートポジションに戻す場合。
 - ① **アクションを2回コールしたにも関わらず膠着した場合。**
 - ② 競技用具が試合に支障を来たす状態の場合。
 - ③ メインレフェリーが、故意、偶然にかかわらずこれから反則が行われる危険性があると判断した場合。
 - ④ **競技者がリング外に落ちた、または落ちるとメインレフェリーが判断した場合。**
 - ⑤ 反則行為やアクシデント等により、試合の攻防を解く必要が生じた場合。
- (5) ストップ・ドント・ムーブ - 次の①②の場合で試合を一時中断し、両競技者をリング内へ戻し、同じ体勢から試合再開させる場合。
 - ① 試合中、競技者がリング外へ落ちそうになった場合やロープ、コーナーポストが試合進行の妨げになるとレフェリーが判断した場合。ただし、技がかかっている場合またはかかりかけているとメインレフェリーが判断した場合コールせず続行させる。その後、技が解けた場合はストップ・ドント・ムーブとコールしリング内へもどす。**リング外に落ちた場合ブレイクとコールしスタートポジションから試合再開となる。**
 - ② 競技用具が試合に支障を来たす状態の場合。

第5条 レフェリーは反則に対して次のように処置する。

- (1)メインレフェリーは、競技者が無意識で犯した反則行為に対し、その内容により①口頭による注意②注意③警告④反則負けの処置をとる。その場合、違反競技者とその処置を適切な合図や身振りで明瞭に示さなければならない。
- (2)メインレフェリーは所持している2種類のカードにより反則の裁定を明示する。
 - ① カードの色は反則への処置を示し、黄色（イエローカード）は注意、赤（レッドカード）は警告となる。
 - ② 各ラウンド中、**イエローカードを提示された競技者は1点減点、レッドカードを提示された競技者は2点減点**される。
 - ③ 反則によってはカードを提示せず、失格になる場合もある。
 - ④ 反則を犯した競技者の形勢が優勢または互角であったとメインレフェリーが判断した場合、ブレイクまたはストップをコールし反則への処置をとり、スタートポジションから試合再開となる。反則を犯した競技者の形勢が劣勢であったとメインレフェリーが判断した場合、ストップドントムーブをコールし反則への処置をとりそのままの体勢から試合を再開するかメインレフェリーの判断により再開時のポジションを決めることができる。重度の反則の場合は反則負けとなる場合もある。
 - ⑤ 反則の裁定は全てレフェリーの判断によるものとする。

第4章 提訴

第6条 提訴

- (1)競技者及びセコンドは、次に掲げる事項についてパンクラスに提訴することができる。
 - ① ルールの適用の誤り
 - ② 試合判定に対する異議（ただし、試合における3名の審判員が同一の結果を下した判定については提訴を受理しない。）
 - ③ 試合結果に影響を及ぼす重大な事実誤認
- (2)提訴は全て文書をもって試合後2週間以内に行うこととし、口頭によるものは無効とする。その提訴に対してパンクラスは、文書によって裁定の結果を通告する。
- (3)試合における裁定等に対する異議の申し立ては、当該レフェリーやジャッジ及び試合役員ではなく、パンクラス宛としなければならない。

第5章 試合

第7条 試合体重は契約体重とし、パンクラスの指定する日時に計量を行う。

第8条 競技者は試合出場にあたり、自己の責任において妊娠検査を済ませ、妊娠していない事を確認しなければならない。

第9条 公式戦の試合時間は、**5分2R**とし、インターバルは1分とする。ただし、特別試合は上記規定に準じない。

第10条 試合はリング内においてのみ行われる。

第11条 試合を管理するレフェリーは、絶対的な権限を持ち、競技者及びセコンドはいかなる場合においてもレフェリーに抗議することは許されない。

第12条 攻防ポジション

- (1)スタートポジション - 試合開始時やレフェリーがブレイクをコールした後などのポジション。両方の競技者は約1.5m以上離れてスタンディングによるファイティングポーズをとり、メインレフェリーの声と合図で試合を開始・再開させる。
- (2)スタンドポジション - 投げ技、組み技、打撃技などルール上許される全ての攻撃が行えるポジション。
- (3)**グラウンドポジション - 一方の競技者の足の裏以外がマットについた状態をグラウンドポジションとする。**

第13条 セコンド

- (1)各コーナー2名以内とし、試合中自軍のコーナーポストから左右エプロンサイドの150cmより外へ出てはならず、観客の邪魔にならないように配慮しなければならない。
- (2)試合中競技者に言葉による助言を与えることができる。ただし、競技者に直接接触する、マットを叩く、ロープを掴むなどの動作による指示を競技者に出してはならない。
- (3)インターバル中、競技者に**水のみを与えることができる**。ラウンド間に**ワセリンの塗りなおしをする場合レフェリーまたはサブレフェリーの確認が必要となる**。禁止されている行為を行った場合、競技者が失格となる場合がある。また、リングを過度に濡らすなど試合進行を妨げてはならない。
- (4)セコンドによる各コーナーの反則は1回目は注意、2回目で退場となる。
- (5)試合中リングやリングエプロンサイド等、試合場にいかなる物も置いてはならない。
- (6)セコンドは相手競技者及びレフェリーへの罵倒、侮辱、暴力行為を行ってはならない。

第6章 反則

第14条 下記の行為は反則とする。

- (1)肘による打撃攻撃。
- (2)頭突きによる打撃攻撃。
- (3)後頭部、脊椎部への打撃攻撃。
- (4)ローブロー。
- (5)一方の競技者でもグラウンドポジションになった時、グローブ装着部分以外による顔面への打撃攻撃。
- (6)バスター、ボムなどにより相手の頭部をマットにたたきつける行為および相手を頭部からマットに落とす行為。
- (7)3本以下の指を掴む攻撃。
- (8)競技用具を掴む行為。
- (9)競技用具を故意に使った投げ技、絞め技。
- (10)故意にリング外に出る行為。
 - (11)ロープ、コーナーポストを掴む、または利用する行為。
 - (12)レフェリーの指示に従わない行為。
 - (13)サミング、噛み付き、髪の毛を掴む、五指により頸部を鷲づかみにする、対戦相手への誹謗中傷的発言など道徳上許されない行為。
 - (14)引っ搔く、つねる、皮膚をつまむ、耳をつかむなど、直接的に皮膚の損傷を企図する行為。
 - (15)ネガティブファイト(消極的試合)
 - (16)目、口、鼻、耳、肛門等の粘膜部への直接的な攻撃及び利用する行為。
 - (17)試合前にレフェリーによるチェックを受けていないテーピングや競技用具、ワセリンの使用。
 - (18)レフェリーに対する抗議、罵倒、暴力行為。
 - (19)レフェリーに対する虚偽のアピール、言動。
 - (20)試合用のコスチューム、マウスピース、ファウルカップ等の競技用具を破損し、試合続行を不可能にする行為。

第15条 試合前後に行われた反則の処置

- (1)試合開始前に反則行為が行われた場合、反則に対する処置により減点された状態で試合開始される場合や反則負けとなる場合がある。
- (2)試合終了後に反則が行われた場合、また試合前や試合中に行われた反則行為が試合後に判明した場合、反則の内容により試合結果が変更される場合がある。

第16条 確信犯的に反則を行った場合、出場停止及び罰金を科す。出場停止期間及び罰金の額はその度合いによりキング・オブ・パンクラス実行委

員会が協議の上決定する。

第7章 勝敗

第17条 ノックアウト(KO)

競技者が対戦相手の攻撃により戦闘不能、または意識を失っているとレフェリーが判断した場合。

第18条 ギブアップ

- (1) 競技者が、声でギブアップの意思表示をレフェリーに示した場合。
- (2) 競技者が、手で相手かマットを2回以上叩き、ギブアップの意思表示をした場合。
- (3) 競技者がレフェリーにギブアップの意思表示と判断される行動をとった場合。

第19条 テクニカル・ノックアウト(TKO)

- (1) メインレフェリーが試合続行不可能と判断した場合。
- (2) ドクターが専門的見地から試合続行不可能と判断した場合。
- (3) セCONDがタオルを投入した場合。

第20条 反則負け

全てメインレフェリーの判断により裁断が下される。

第21条 判定

- (1) 試合の決着が時間内につかなかった場合、3名の審判員によって各ラウンドの優劣を10点マイナス法で採点し、判定を下す。合計点により3名の内2名以上が優勢と判定を下した競技者の判定勝ちとする。
またアクシデントにより試合続行不可能となった場合は1R終了で試合成立するものとし、その時点で行われているところまでを判定する。
2Rが開始されている場合も終了時点までを判定する。

(2) 判定基準

- ① ダメージ・サブミッションのアドバンテージ
- ② 優位性
- ③ アグレッシブ

以上の観点から総合的に判定をつける。

第22条 引き分け

- (1) 時間内に勝敗がつかず、3名の審判員の内2名以上が優勢と判定を下さなかった場合。
- (2) 両方の競技者がほぼ同時にノックアウトされたとレフェリーが判断した場合。

第23条 ノーコンテスト

パンクラスと審判団が競技の結果、試合不成立と判断した場合。

第24条 試合結果の保留

- (1) 試合の裁定をその場で決するのに適さない事態が発生した場合、審判団は試合結果を保留し、キング・オブ・パンクラス実行委員会の審議に預けることができる。
- (2) 試合時において、裁定を決するための前提となる事実が明らかにならない場合、審判団は、仮に裁定を下すことができる。仮に下された裁定については、後刻事実を確認したうえで、2週間以内に正式な裁定を下さなければならない。

第8章 附則

競技に関し、本ルールに規定のない事項については、パンクラスオフィシャルルール（2010年改訂版：2010年8月8日施行）に準じる。

「パンクラスアテナ ゲートルール」

1. 試合時間は5分2Rの一種類のみとする。
2. 判定はなし。時間切れ引き分けとする。
3. レガースとニーパットは必ず着用する。
4. どちらか一方の選手でもグラウンド状態になった場合、顔面への打撃は一切禁止とする。
5. ヒールホールドは禁止技とする。
6. レフリーが危険と判断した場合のストップ(見込み一本、スタンディングダウンによるKO)は、アテナルールより早くなる。
7. 上記以外はパンクラスアテナルールに準ずる。